

三重県経済の現状と見通し＜2025年12月＞

1. 景気判断 一覧表

部門	個別項目	水準評価 ※1		基調判断(前月比較)※2
				詳細
総括判断	景気の現状			一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる 輸出に弱さがみられるものの、観光や企業活動は持ち直しているなど、持ち直しの動きがみられる。
家計部門	個人消費			持ち直している 勤労者世帯・消費支出は、2か月連続の前年比増加
	住宅投資			減少傾向にある 住宅着工戸数は、7か月ぶりの前年比増加
	観光			回復している 外国人宿泊者数は、9か月連続の前年比増加
	雇用・所得			持ち直し傾向が一服 有効求人倍率(季節調整値)は、2か月ぶりの低下
企業部門	企業活動			足踏み 鉱工業生産指数は、2か月連続の前年比上昇
	企業倒産			悪化しつつある 倒産件数は、2か月連続の前年比減少
	設備投資			持ち直しの兆し 民間非居住建築物着工面積は、2か月ぶりの前年比減少
海外部門	輸出			減少している 四日市港通関輸出額は、16か月連続の前年比減少
公共部門	公共投資			持ち直しつつある 公共工事請負金額は、5か月ぶりの前年比減少
その他	物価			上昇している 津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、46か月連続の前年比上昇

当面の見通し	物価高や世界経済の不透明感から、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し
	個人消費の回復が期待される一方、日中対立の緊迫化やトランプ政権の関税政策など世界経済を巡る不透明感は強く、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し。

※1「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、
:晴、:晴～曇、:曇、:曇～雨、:雨、を示す。
※2「基調判断(前月比較)」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、
:上方修正、:据え置き、:下方修正を示す。
(例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる)
したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。
個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先

三十三総研 調査部 古橋
電話:059-354-7102
Mail:33ir@33bank.co.jp

2. 個別部門の動向: 家計部門

個人消費	水準評価		☀️☁️		
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	持ち直している
「現状」 ○個人消費は、持ち直している。 ○個人消費の動向を支出者側からみると、10月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比+1.5%と2か月連続の増加(図表1)。勤労者世帯可処分所得(津市)は同▲8.4%と8か月連続の減少。 ○個人消費の動向を販売者側からみると、10月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースは前年比+3.1%、既存店ベースも同+1.6%とともに8か月連続の増加(図表2)。全店ベースを商品別にみると、飲食料品(同+4.0%)が12か月連続で増加し、全体を押し上げ。 ○11月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、6,523台(前年比▲0.6%)となり、前年比で3か月ぶりの減少(図表3)。車種別にみると、普通車(同▲8.6%)は2か月連続、小型車(同▲0.5%)は2か月ぶりでそれぞれ減少となった一方、軽乗用車(同+9.1%)は4か月連続で増加した。 「見通し」 ○東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、11月の家計部門の水準は46.9と11か月連続で好不況の分かれ目となる50を下回った。2〜3か月先の先行きに対する判断DIについては、49.1と前月(52.9)から下落し、好不況の分かれ目の50を2か月ぶりに下回った。引き続き、所得環境の改善や株高を受けた資産効果による個人消費の回復に期待が持てる一方、長引く物価上昇が懸念材料に。					
◆10月 勤労者世帯・消費支出 ○ 324千円 前年比 +1.5% (2か月連続の増加) ◆10月 大型小売店販売額 ○ 全店 前年比 +3.1% (8か月連続の増加) ○ 既存店 前年比 +1.6% (8か月連続の増加) ◆11月 新車乗用車販売台数<含む軽> ○ 6,523台 前年比 ▲0.6% (3か月ぶりの減少) ・普通車 前年比 ▲8.6% (2か月連続の減少) ・小型車 前年比 ▲0.5% (2か月ぶりの減少) ・軽乗用車 前年比 +9.1% (4か月連続の増加)					
図表1 津市消費支出等<前年比>					
図表2 大型小売店販売額<前年比>					
図表3 新車乗用車販売台数<前年比>					

Legend:

- 分譲 (Green)
- 貸家 (Yellow)
- 総計 (Blue)
- 給与 (Blue)
- 持家 (Pink)

Y-axis: (%)

X-axis: 2020, 21, 22, 23, 24, 25 (Year/Month)

(資料)国土交通省「建築着工統計」

(年/月)

(千人泊)

延べ宿泊者数(左目盛)
前年比(右目盛)
同上(6か月後方移動平均、右目盛)

(%)

▲ 50
▲ 100

2020 21 22 23 24 25

(資料)国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」

(年/月)

雇用・所得	水準評価		☀️☁️		
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	持ち直し傾向が一服

《現状》

- 雇用・所得情勢は、持ち直し傾向が一服。
- 10月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.16倍(前月差▲0.02ポイント)と2か月ぶりの下落。新規求人倍率(季節調整値)は、2.09倍(同+0.15ポイント)と3か月ぶりの上昇(図表6)。
- 10月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比+2.9%と4か月連続の増加(図表7)。業種別にみると、製造業(同+1.9%)では化学工業(同▲17.5%)、金属製品(同▲6.5%)などが減少した一方、電気機械(同+101.3%)や食料品(同+51.3%)などが増加した。非製造業では、宿泊業、飲食サービス業(同▲30.7%)や医療、福祉(同▲3.5%)などが減少した一方、運輸業、郵便業(同+32.2%)や建設業(同+19.7%)などが増加した。
- 9月の所定外労働時間指数は、前年比+1.9%と16か月連続の上昇。名目賃金指数(同+3.4%)は18か月連続、きまって支給する給与(同+1.6%)は27か月連続の上昇(図表8)。

《見通し》

- 所得については、物価高を踏まえたベアの広がりや最低賃金の上昇、人手不足感の深刻化を受けて今後も幅広い業種で賃金上昇が期待される。

◆10月 求人倍率＜季節調整値＞

- 有効求人倍率 1.16倍
前月差 ▲0.02ポイント (2か月ぶりの低下)
- 新規求人倍率 2.09倍
前月差 +0.15ポイント (3か月ぶりの上昇)

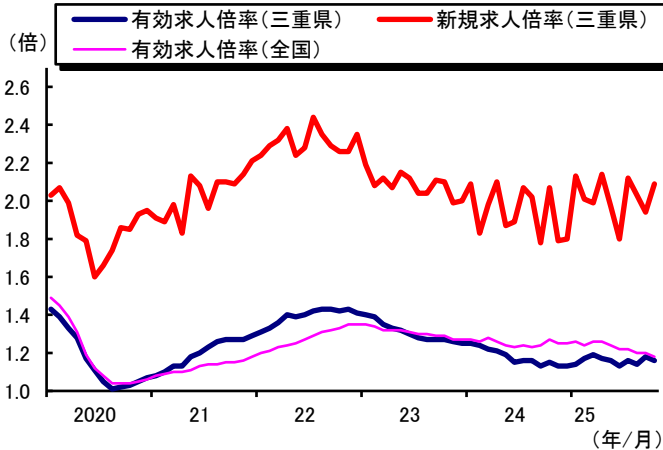
◆10月 新規求人数＜学卒・パートタイム除く＞

- 前年比 +2.9% (4か月連続の増加)

◆9月 労働時間・賃金指数＜調査産業計＞

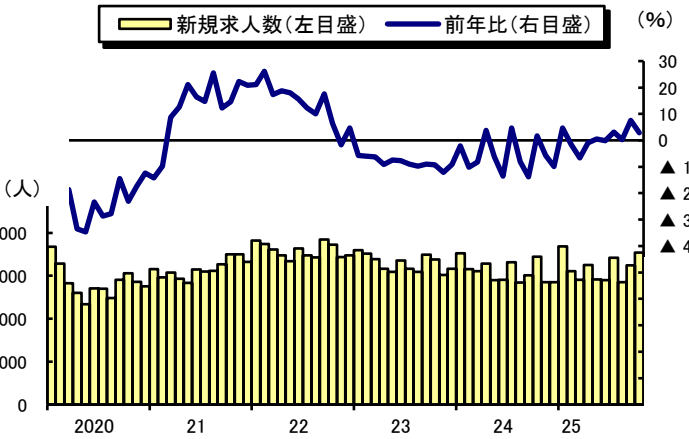
- 所定外労働時間指数
前年比 +1.9% (16か月連続の上昇)
- 名目賃金指数
前年比 +3.4% (18か月連続の上昇)
- ・きまって支給する給与
前年比 +1.6% (27か月連続の上昇)

図表6 有効・新規求人倍率＜季節調整値＞



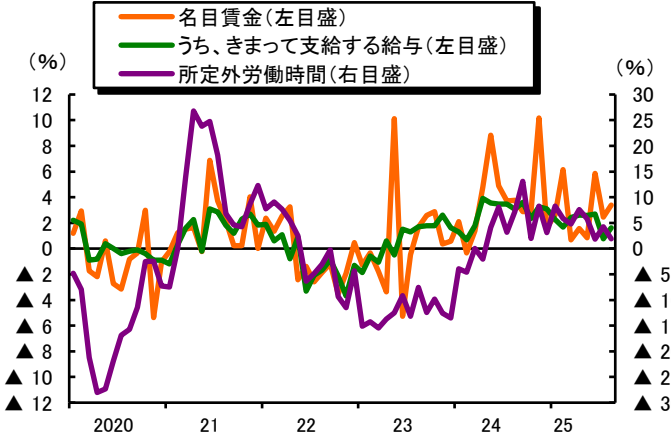
(資料) 三重労働局「労働市場月報」

図表7 新規求人数＜学卒・パート除く＞



(資料) 三重労働局「労働市場月報」

図表8 労働時間・賃金指数＜調査産業計、前年比＞



(資料) 三重県戦略企画部統計課「毎月勤労統計調査」

3. 個別部門の動向: 企業部門

企業活動	水準評価				
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	足踏み
《現状》 ○企業の生産活動は、足踏みしている。 ○10月の鉱工業生産指数は、前年比+5.2%と2か月連続の上昇(図表9)。業種別にみると、電子部品・デバイス(同▲2.4%)などが低下した一方、食料品工業(同+27.7%)や汎用・生産用・業務用機械工業(同+15.1%)などが上昇した。 《見通し》 ○先行き生産は、日米関税交渉が合意に至り、自動車にかかる関税は当初の25%から15%に引き下げられ、予想していたシナリオより影響が緩和されることや不透明感が払拭されたことから、持ち直しの傾向となる見通し。 ○井村屋(津市)は津工場内に新たなアイス工場を建設すると発表した。「あずきバー」シリーズを中心とした冷凍食品の供給体制強化と新たな付加価値の創出を目的に、約40億円を投じて延べ面積2,276㎡の新工場を建設する。竣工は2026年6月を予定。 ◆10月 鉱工業生産指数<2020年=100> ○ 110.9 前年比 +5.2% (2か月連続の上昇) ・汎用・生産用・業務用機械工業 前年比 +15.1% (2か月連続の上昇) ・電子部品・デバイス工業 前年比 ▲2.4% (2か月ぶりの低下) ・輸送機械工業 前年比 +5.1% (2か月連続の上昇) ・化学工業 前年比 ▲2.7% (6か月連続の低下) 図表9 鉱工業生産指数<前年比> (資料)三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」					

企業倒産	水準評価				
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	悪化しつつある
《現状》 ○企業倒産は、悪化しつつある。 ○11月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は8件(前年比▲2件)と2か月連続の減少。負債総額は700百万円(前年差▲604百万円)と4か月連続の減少(図表10)。 《見通し》 ○中小企業の経営環境は、金利上昇や物価高を受け、厳しさを増しており、企業倒産は増勢基調をたどる懸念も。 ◆11月 企業倒産 ○ 倒産件数 8件 前年比 ▲2件 (2か月連続の減少) ○ 負債総額 700百万円 前年比 ▲604百万円 (4か月連続の減少) 図表10 倒産件数・負債総額<負債総額1,000万円以上> (資料)㈱東京商工リサーチ津支店					

設備投資	水準評価				
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	持ち直しの兆し
《現状》 ○企業の設備投資は、持ち直しの兆し。 ○10月の民間非居住建築物着工床面積は、26千㎡（前年比▲37.3%）と前年比で2か月ぶりの減少。11月の貨物車登録台数（除く軽）は、473台（同＋50.2%）と前年比で3か月連続の増加（図表11）。 《見通し》 ○変圧器など送配電設備メーカーのダイヘン（大阪市）は、三重事業所（多気町）に新工場を建設する。再生可能エネルギーの拡大やデータセンター・半導体工場の建設増加に伴い、変電所機器の需要が高まっており、大型変圧器の生産の能力を2026年度から徐々に増強することで、2029年度までに2倍にする計画。総投資額は100億円規模。					
◆10月 民間非居住建築物着工床面積 ○ 26千㎡ 前年比 ▲37.3% （2か月ぶりの減少） ◆11月 貨物車登録台数 ○ 473台 前年比 ＋50.2% （3か月連続の増加）			図表11 設備投資関連指標＜前年比＞ (%) 民間非居住建築物着工床面積(左目盛) (%) 375 250 125 0 -125 -250 75 50 25 0 -25 -50 2020 21 22 23 24 25 (年/月) (資料)国土交通省「建築着工統計」、 日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」		

4. 個別部門の動向：海外部門

輸出	水準評価		🌤️🌧️		
	基調判断	前月比較	➡	詳細	減少している
《現状》 ○輸出は、減少している。 ○11月の四日市港通関輸出額は、953億円（前年比▲0.4%）となり、前年比で16か月連続の減少（図表12）。 品目別にみると、石油製品（同＋51.5%）などが増加した一方、電気回路等の機器（同▲26.3%）や ゴム製品（同▲18.0%）などが減少。 《見通し》 ○日米関税交渉が合意に至り、当初の関税率から引き下げられたことから、自動車産業を中心に底堅く推移 する見通し。					
◆11月 四日市港通関輸出額 ○ 953億円 前年比 ▲0.4% （16か月連続の減少） ----- ・石油製品 73億円 前年比 ＋51.5% （2か月ぶりの増加） ・有機化合物 62億円 前年比 ▲4.5% （2か月ぶりの減少） ・電気回路等の機器 50億円 前年比 ▲26.3% （16か月連続の減少） ・乗用車 202億円 前年比 ＋10.9% （4か月ぶりの増加） ・自動車の部分品 90億円 前年比 ＋12.4% （4か月連続の増加） ・科学光学機器 2億円 前年比 ▲66.4% （7か月連続の減少）					
			図表12 四日市港通関輸出額＜前年比＞ （資料）名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」		

5. 個別部門の動向：公共部門

公共投資	水準評価				
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	持ち直しつつある
《現状》 ○公共投資は、持ち直しつつある。 ○11月の公共工事請負状況をみると、請負件数は270件(前年比▲2.9%)と2か月ぶりの減少。請負金額は86億円(同▲27.5%)と5か月ぶりの減少(図表13)。請負金額を発注者別にみると、県(同+27.2%)が増加したものの、国(同▲73.8%)、独立行政法人等(同▲95.1%)、市町(同▲7.3%)がそれぞれ減少。 《見通し》 ○11月19日に三重県は一般会計に8.7億円を追加する12月補正予算案を発表。出没が相次ぐクマの対応に4.3百万円、妊産婦を支援する市町への補助費として1.8百万円などを計上する。					
◆11月 公共投資 ○公共工事請負件数 270件 前年比 ▲2.9% (2か月ぶりの減少) ○公共工事請負金額 86億円 前年比 ▲27.5% (5か月ぶりの減少) 図表13 公共工事請負金額 (資料) 東日本建設業保証㈱三重支店					

6. 個別部門の動向：その他

物価	水準評価				
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	上昇している
《現状》 ○物価は、上昇している。 ○11月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比+2.6%と46か月連続の上昇(図表14)。生鮮食品を除く食料(同+7.3%)や交通・通信(同+2.7%)など、多くの項目で上昇。 《見通し》 ○米などの食料品価格上昇の影響が減衰していくもとで消費者物価(生鮮食品を除く)は低下傾向で推移していく見通し。					
◆11月 消費者物価指数<生鮮食品を除く、2020年=100> ○111.4 前年比 +2.6% (46か月連続の上昇) ・食料(生鮮食品を除く) 前年比 +7.3% (52か月連続の上昇) ・住居 前年比 ▲0.4% (2か月連続の下落) ・光熱・水道 前年比 +3.0% (3か月連続の上昇) ・交通・通信 前年比 +2.7% (13か月連続の上昇) ・教養娯楽 前年比 +2.1% (35か月連続の上昇) 図表14 津市消費者物価指数<前年比> (資料) 総務省「消費者物価指数」					

県内経済



トピックス

(2025年11月)

1. 「泊まれる美術館」、伊勢市にオープン

- 11月9日、宿泊しながら美術鑑賞を楽しめる「エクスペリエンス伊勢宮町」が伊勢市宮町にオープン。全国から募った美術家15人の作品が客室や共用部を彩り、さながら「泊まれる美術館」の趣。
- 施設は伊勢神宮外宮から徒歩10分。市内の建設会社「ビーディホーム」が運営。歯科医院だった築40年余りの建物を改修し、定員2～4名の客室計10室を用意した。
- ホテルマネージャーの竹野泰人さんは「アートを通じ、五感を震わせるような体験をしてもらいたい。伊勢のローカルな魅力にも触れてもらえれば」と話した。

2. 伊勢志摩のリゾート施設「NEMU RESORT」、2026年4月にリニューアルオープン

- 11月17日、三井不動産と伊勢志摩リゾートマネジメントは2026年4月18日に「NEMU RESORT」をリニューアルオープンすることを発表。
- 伊勢志摩の自然を満喫する新ヴィラ「ヒルズヴィラ」、「フォレストヴィラ」を新設し、既存ホテル客室もリニューアル。
- 森と海に囲まれた広大な敷地で花しょうぶや合歓(ねむ)の花などが楽しめる「里山水生園」を再整備し、豊かな自然と触れ合いながら「自然環境との共生」を考える水辺空間を創出した。

3. 四日市市補正予算案、大雨災害の復旧支援に1億667万円

- 11月20日、四日市市は11月定例会に提出する約27億円の2025年度一般会計補正予算案を発表。9月の大雨災害の復旧支援などに1億667万2千円を設定。
- 災害関連では「止水板等設置補助金」に750万円を計上。止水板の購入や設置に50万円を上限に費用の2分の1を補助する。被災世帯への衣服や衛生用品など生活必需品の支給に97万7千円を盛り、近鉄四日市駅東側の商店街で実施する活性化イベントの補助率、上限を拡充する。
- 新図書館整備事業は基本設計業務委託費として、2026年度までの債務負担行為を2億7,100万円設定。

(出典) 中日新聞、各社HP

以上

景 気 指 標

三十三総研
2025/12/26

<三重県>

(注)()内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整済前期(月)比

	2023 年	2024 年	2024年	2025年			2025年				
			10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	7月	8月	9月	10月	11月
大型小売店販売額(全店)	(1.1)	(0.7)	(0.3)	(1.2)	(3.4)	(2.2)	(3.0)	(1.5)	(2.1)	(3.1)	
同 (既存店)	(0.3)	(1.1)	(1.2)	(1.7)	(2.8)	(1.0)	(1.9)	(0.4)	(0.7)	(1.6)	
新車販売台数(軽を除く、台)	54,820 (13.8)	54,634 (▲ 0.3)	13,070 (▲ 2.9)	15,297 (12.3)	11,842 (▲ 0.4)	12,917 (▲ 3.4)	4,616 (▲ 4.9)	3,434 (▲ 6.9)	4,867 (0.7)	4,632 (▲ 1.7)	4,516 (▲ 1.6)
うち乗用車販売台数(台)	48,492 (15.3)	48,294 (▲ 0.4)	11,755 (▲ 0.9)	13,713 (11.7)	10,655 (0.7)	11,421 (▲ 3.1)	4,101 (▲ 3.7)	2,992 (▲ 7.1)	4,328 (0.4)	4,109 (▲ 2.9)	3,953 (▲ 6.1)
新車軽自動車販売台数(台)	39,708 (4.7)	34,947 (▲ 12.0)	8,912 (▲ 12.1)	10,520 (20.3)	8,402 (9.9)	9,482 (▲ 1.7)	3,167 (▲ 2.6)	2,582 (▲ 3.5)	3,733 (0.3)	3,428 (9.2)	3,186 (4.7)
うち乗用車販売台数(台)	31,028 (7.8)	27,595 (▲ 11.1)	6,919 (▲ 11.2)	8,770 (22.2)	6,605 (12.9)	7,506 (▲ 1.9)	2,413 (▲ 7.9)	2,076 (0.7)	3,017 (1.7)	2,641 (12.8)	2,570 (9.1)
新設住宅着工戸数(戸)	9,224 (▲ 6.9)	7,751 (▲ 16.0)	1,803 (▲ 13.8)	2,182 (15.3)	1,594 (▲ 18.6)	1,727 (▲ 17.6)	659 (▲ 10.0)	534 (▲ 23.8)	534 (▲ 19.5)	750 (16.3)	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	7,176 (3.3)	8,692 (21.1)	2,272 (15.3)	2,128 (6.0)	2,184 (6.0)	2,539 (8.0)	818 (9.0)	1,028 (12.6)	693 (0.9)		
有効求人倍率(季調済)	1.31	1.17	1.13	1.16	1.16	1.16	1.16	1.14	1.18	1.16	
新規求人倍率(季調済)	2.08	1.94	1.91	2.04	1.97	2.03	2.12	2.03	1.94	2.09	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	78,847 (▲ 8.3)	74,467 (▲ 5.6)	18,390 (▲ 3.8)	19,394 (▲ 0.9)	18,133 (▲ 0.2)	19,011 (3.7)	6,834 (3.2)	5,697 (0.2)	6,480 (7.6)	7,085 (2.9)	
名目賃金指数(調査産業計)	(0.6)	(4.5)	(6.5)	(3.5)	(1.0)	(4.1)	(5.8)	(2.5)	(3.4)		
実質賃金指数(同)	(▲ 2.7)	(1.3)	(2.4)	(▲ 0.7)	(▲ 2.2)	(0.9)	(2.5)	(▲ 0.6)	(0.0)		
所定外労働時間(同)	(▲ 11.7)	(2.2)	(10.1)	(5.8)	(6.0)	(2.6)	(1.8)	(4.3)	(1.9)		
常用雇用指数(同)	(3.2)	(1.9)	(1.2)	(0.7)	(▲ 0.2)	(0.3)	(0.0)	(0.4)	(0.7)		
鉱工業生産指数	(▲ 5.1)	(0.4)	(▲ 0.2)	(7.3)	(1.9)	(▲ 1.6)	(▲ 5.4)	(▲ 6.0)	(6.3)	(5.2)	
	-	-	<▲ 3.4>	<▲ 1.7>	< 8.1>	<▲ 4.8>	<▲ 3.5>	<▲ 2.6>	< 12.9>	< 1.1>	
生産者製品在庫指数	(1.5)	(▲ 8.9)	(▲ 3.5)	(▲ 0.7)	(12.2)	(7.0)	(12.1)	(5.4)	(3.9)	(4.5)	
	-	-	<▲ 1.8>	<▲ 3.1>	< 13.2>	<▲ 0.7>	<▲ 1.9>	<▲ 1.9>	< 3.5>	<▲ 6.7>	
企業倒産件数(件)	130	135	36	33	19	43	24	7	12	8	8
(前年同期(月)比)(件)	(65)	(5)	(▲ 2)	(3)	(▲ 12)	(5)	(12)	(▲ 11)	(4)	(▲ 3)	(▲ 2)
民間非居住建築物着工床面積(千㎡)	553 (▲ 29.7)	574 (3.8)	135 (16.2)	93 (▲ 35.3)	228 (104.5)	305 (66.1)	32 (▲ 49.4)	39 (▲ 34.4)	234 (284.6)	26 (▲ 37.3)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	▲ 1,324,497	▲ 1,294,042	▲ 314,264	▲ 354,616	▲ 222,064	▲ 227,149	▲ 41,503	▲ 93,248	▲ 92,398	▲ 89,258	▲ 96,313
輸出(百万円)	1,124,612 (1.9)	1,133,799 (0.8)	305,788 (▲ 10.7)	269,475 (▲ 2.3)	270,934 (▲ 7.8)	269,425 (▲ 1.2)	101,486 (8.4)	73,427 (▲ 18.8)	94,512 (6.5)	103,761 (0.8)	95,663 (▲ 0.2)
四日市港 輸出(百万円)	1,075,841 (2.1)	1,091,240 (1.4)	300,503 (▲ 9.9)	244,731 (▲ 11.2)	247,223 (▲ 11.1)	245,955 (▲ 8.0)	89,955 (▲ 3.9)	73,418 (▲ 14.0)	82,582 (▲ 6.6)	92,593 (▲ 5.3)	95,302 (▲ 0.4)
輸入(百万円)	2,449,109 (▲ 7.6)	2,427,841 (▲ 0.9)	620,052 (▲ 10.7)	624,091 (4.0)	492,998 (▲ 23.9)	496,574 (▲ 23.9)	142,989 (▲ 34.5)	166,676 (▲ 27.4)	186,910 (▲ 8.6)	193,019 (▲ 0.8)	191,976 (3.5)
公共工事請負金額(億円)	1,844 (▲ 3.7)	2,004 (8.7)	340 (1.7)	290 (▲ 33.5)	792 (22.0)	687 (18.6)	274 (41.5)	192 (1.7)	220 (12.3)	156 (7.1)	86 (▲ 27.5)
津市消費者物価指数	(2.9)	(2.4)	(3.1)	(3.6)	(3.1)	(2.7)	(2.8)	(2.5)	(2.9)	(3.1)	(2.7)
同 (除く生鮮)	(2.7)	(2.2)	(2.7)	(3.0)	(3.2)	(2.7)	(2.8)	(2.4)	(3.0)	(3.1)	(2.6)

<東海3県(三重・愛知・岐阜)>

	2023 年	2024 年	2024年	2025年			2025年				
			10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	7月	8月	9月	10月	11月
大型小売店販売額(全店)	(1.6)	(2.7)	(0.7)	(1.9)	(1.6)	(2.3)	(1.0)	(2.6)	(3.5)	(5.3)	
同 (既存店)	(0.9)	(3.2)	(1.8)	(2.8)	(1.7)	(1.9)	(1.4)	(1.9)	(2.6)	(4.5)	
新設住宅着工戸数(戸)	73,459 (▲ 8.3)	72,757 (▲ 1.0)	17,880 (▲ 1.8)	18,545 (▲ 1.5)	13,669 (▲ 21.8)	17,478 (▲ 5.9)	6,167 (3.1)	5,790 (2.9)	5,521 (2.8)	6,094 (3.0)	
有効求人倍率(季調済)	1.39	1.31	1.29	1.31	1.31	1.28	1.29	1.27	1.27	1.25	
新規求人倍率(季調済)	2.39	2.35	2.34	2.41	2.35	2.30	2.35	2.33	2.24	2.29	
鉱工業生産指数	(3.5)	(▲ 2.8)	(▲ 1.1)	(7.0)	(1.1)	(▲ 0.4)	(▲ 1.0)	(▲ 1.9)	(4.0)	(3.1)	
	-	-	< 2.0>	< 3.7>	<▲ 4.1>	<▲ 2.0>	<▲ 1.2>	< 0.1>	< 0.8>	< 5.6>	
企業倒産件数(件)	799	868	223	220	209	263	102	77	84	66	61
(前年同期(月)比)(件)	(265)	(69)	(7)	(24)	(0)	(23)	(8)	(4)	(11)	(▲ 8)	(▲ 14)
域内外国貿易 純輸出(億円)	88,899	99,401	28,206	23,384	24,488	24,248	9,174	6,649	8,425	10,171	9,364
輸出(億円)	212,571 (11.5)	225,311 (6.0)	60,353 (0.7)	56,625 (6.9)	55,354 (▲ 0.6)	55,837 (▲ 0.8)	19,747 (▲ 5.3)	16,496 (▲ 5.9)	19,594 (9.3)	20,819 (4.9)	19,420 (1.3)
輸入(億円)	123,672 (0.1)	125,911 (1.8)	32,147 (▲ 2.2)	33,242 (12.7)	30,865 (▲ 2.1)	31,589 (▲ 3.6)	10,573 (▲ 7.8)	9,847 (▲ 6.7)	11,170 (4.0)	10,647 (▲ 2.7)	10,056 (1.2)

：各指標における直近の数値